

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

枝削がれ鎮魂の秋大銀杏

池田 安起徒

種採の片手にあふれこぼれけり

西村 セツ

菩提寺の黄葉しきり忌を修す

本浦 玲子

大陽俳句会

冬ぬくし庭師と語る今むかし

岩重 みどり

置き石を隠して石路の花咲けり

逆瀬川 節子

冬風に噴きたる山の雄姿かな

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

じゃあまたねと別れしあの日が恋しかり
またねの「また」は永遠になく

宝蔵 弘二

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

「ごはんだよー」呼べば帰り来る猫三匹
扶養家族の絆携へ

森岡 ちどり

改葬を終へたる墓前に焼香す
亡夫よ見えますか風の彼方より

長倉 佳津子

大陽短歌会

石仏誰かマスクを付けたやら
画面に見入る初春の朝

安藤 フヂ子

酢とザラメうす口しょう油と大根と
漬けもの習う温泉の中

川辺 敦子

朝焼けに染まる川面にそれぞれの
水脈くきやかに鴨ら遊べる

広川 ミドリ

財部短歌会

稜線をぢりぢり焦がし沈みゆく
けふの夕陽をあふぎをりたり

井上 澄子

穏やかな小春日和のひるさがり
筆を机上に双手でバンザイ

杉村 リカ

新米の売り値アップのご時世に
農家の米価はダウンのパンチ

児玉 次雄

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

長げ養生も 耳と頭は
治らせじ

古川 一幹

何いが養生 悪りち言かた
焼酎を飲ん

胡摩ヶ野 べぶまつ

養生頑張っ 病気が完治つ
安楽じゃ

浜田 一好

養生だらけ こん身体100才ば
狙ろちよいが

桐野 奈世

大陽薩摩狂句会

ワクチンぬ 沢山注射たて
未だも心配

津留 群志

取い寄せん 高級お節ち
笑顔ん家族

小倉 りんりん

病氣どみ 負けちやならんち
老夫婦

新屋 涼子

早よ来言て 正月つ待っとは
子ばっかい

西山 美代子